

保育者養成課程学生の進路決定と実習の関連性

— 学生に有効な指導の構築に向けて —

長谷川 美 香

Analysis of the Relevance of Practical Training to Career Decisions of Students in a Childcare Training Course

— For the construction of effective methods for student guidance —

Mika Hasegawa

要 旨

幼稚園教諭免許状や保育士資格を取得するための実習が、進路決定に良い影響を与えると思われることもあるが、実習中にリアリティ・ショックを受け、自信を失くし、進路変更をするケースもある。実習は、保育者として必要な知識、技術を基礎としながら総合的に実践し、応用能力を養う場であるが、同時に、進路決定に有効となる必要もある。

本稿では、短期大学2年生への調査から、実習が進路決定にどういった影響を与えているのかを明らかにし、今後の指導をどうすべきか考察した。

その結果、「充実感、達成感を得られる」、「保育職の魅力を知ることが出来る」、「理想となる保育者に出会える」、「実習先の保育者同士の人間関係が良いと感じられる」ことが進路決定に良い影響を与えることが明らかとなった。

また、養成校の指導としては、「実習外でも保育実践の場がある」、「卒業生やその他の保育者と接する、就職に関する説明を聞く機会がある」、「保育職とは別の職種への理解を深める機会がある」ことが進路決定に有効である可能性があることが分かった。

Abstract

While practical trainings to obtain licenses kindergarten teacher and nursery teacher are seemed to have positive impacts on career decisions, there are cases where students receive reality shocks during practical trainings, leading to losses in confidence and changes in career paths. The trainings are comprehensive practice opportunities to cultivate applied skills based on the knowledges and techniques necessary for childcare, and at the same time, they must be effective in determining the career paths for students.

In this report, based on a survey of second year junior college students, I have clarified the impacts of practical trainings on career decisions and have examined how student guidance should be provided in the future.

From the results, I have revealed that “gaining fulfillment and accomplishment”, “learning about the appeal of the childcare profession”, “meeting ideal childcare providers”, and “feeling good about relationships with other childcare providers at the training sites”, had positive impacts on career decisions.

In addition, it was found that “opportunities to practice childcare outside of practical training”, “contact with graduates and

other childcare professionals”, “chances to hear explanations about employment”, and “opportunities to deepen understanding of occupations other than childcare” may be effective in helping students decide on their career path.

Key words : career decision making, impact of practical training, effective practical training and career guidance

I. 問題と目的

桜の聖母短期大学生活科学科福祉こども専攻こども保育コース（以下、こども保育コース）では、幼稚園教諭二種免許状、保育士資格を取得することが出来る。学生は、2年間で幼稚園教育実習を2回（「幼稚園教育実習Ⅰ」、「幼稚園教育実習Ⅱ」）、保育実習を3回（「保育実習Ⅰ（保育所）」、「保育実習Ⅰ（施設）」、「保育実習Ⅱ」又は「保育実習Ⅲ」^{注1)}）、計5回^{注2)}の実習を行い、実習時期やそれぞれの実習で学ぶ内容に合わせ、実習指導を受ける。

実習指導においては、教員が、厚生労働省が示す保育士養成課程の「教科目の教授内容」（表1）¹⁾、福島県保育者養成校連絡会作成の「保育実習の手引き」、こども保育コース作成の「幼稚園教育実習の手引き」等を基に、実習の目的、心構え、子どもや利用者に応じた関わり、計画や記録、守秘義務、職業倫理、課題の明確化について等、実習で求められる内容を多岐に渡って指導する。それらは実習のみならず、卒業後、保育職に就いた際にも必要となることである。そのため、教員は、実習指導であると同時に将来に繋がる学びでもあると意識し、指導にあたっている。

5回の実習を終える前に希望就職先を決定する学生や、四年制大学への編入学を希望する学生は別だが、多くの学生は、実習を終えた2年次9月頃から本格的に就職活動を始め、実習での経験が進路決定に影響を与えるケースもある。具体的には、実習先から高い評価を得る、実習先の保育内容に惹かれる、目標としたい保育者に会おうといった経験をし、実習先に就職を希望するケース、友人から実習の話聞き、友人の実習先に関心を抱いて就職を希望するケース、実習を経験して保育職は向かないのではないかと自信を失い、保育職とは別の進路に進むことを決めるケース等である。

学生にとって実習は、子どもの生活や遊び、子どもと保育者の関わり、保育者の援助、保育現場の生活の流れ、保育者の業務内容等、学内のみでは得られない様々な学びを得たり、学んだことの理解を深めたりする機会であるが、保育職に就くという思いを強くする、就職先を決定するという様に、進路決定をする判断材料の一つとなることもあり、保育職に就く、就かないにかかわらず、学生にとって、実習が進路を決めるうえでも有効なものとならなければならない。しかし、中には保育者としての適性はあると思われる学生でも、実習での経験から保育職に嫌悪感を抱き、希望進路を変更することもある。

小島（2020）は、保育者の離職原因としてリアリティ・ショックが指摘されることが多いが、保育者養成校での実習段階で、保育者の子どもへの関わり方に関する違和感や保育方法への疑問、保育者間の人間関係、大学での学びと保育現場の現状との違いといったことからリアリティ・ショックを感じ、進路が決定した後も「これでいいのか」と心の揺らぎがあり、就職先でのリアリティ・ショックに繋がるのではないかと指摘している²⁾。神谷（2009）は、短期大学生の場合、卒業を控え、就職活動を進めている時期、つまり、責任実習の様に保育者としての力量を問われる実習を終え、進路について現実的に検討している時期に保育者効力感が低下していることや、保育者養成系の学生の自己概念の明確化は、就職活動そのものではなく、実習を中心とした専門教育を通して果たされ、実習やその他の専門教育が常に進路選択過程としての意味も有し、高い専門性に基づいて在学中を通して職業的自己概念を再検討しなければならない専攻であるために、進路選択に困難をきたす学生もいることも述べている³⁾。

これらの様に実習が進路決定に与える影響に関する研究はあるが、どういった実習であれば有効であるかという視点を中心とする研究は少ない。

本稿では、こども保育コース2年生への調査から、実習での経験が進路決定にどの様に関係しているのか等を明ら

かにし、進路決定に有効となるための実習や、実習指導をはじめとした養成校の指導、支援の在り方を検討する一助としたい。

表1 「保育実習指導Ⅰ」、「保育実習指導Ⅱ又はⅢ」の目標と内容

【保育実習指導Ⅰ】

<p>〈目標〉</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育実習の意義・目的を理解する。 2. 実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にする。 3. 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。 4. 実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解する。 5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けた課題や目標を明確にする。
<p>〈内容〉</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育実習の意義 <ol style="list-style-type: none"> (1) 実習の目的 (2) 実習の概要 2. 実習の内容と課題の明確化 <ol style="list-style-type: none"> (1) 実習の内容 (2) 実習の課題 3. 実習に際しての留意事項 <ol style="list-style-type: none"> (1) 子どもの人権と最善の利益の考慮 (2) プライバシーの保護と守秘義務 (3) 実習生としての心構え 4. 実習の計画と記録 <ol style="list-style-type: none"> (1) 実習における計画と実践 (2) 実習における観察、記録及び評価 5. 事後指導における実習の総括と課題の明確化 <ol style="list-style-type: none"> (1) 実習の総括と自己評価 (2) 課題の明確化

【保育実習指導Ⅱ又はⅢ】

<p>〈目標〉</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に理解する。 2. 実習や既習の教科目の内容やその関連性を踏まえ、保育の実践力を習得する。 3. 保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について、実践や事例を通して理解する。 4. 保育士の専門性と職業倫理について理解する。 5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。
<p>〈内容〉</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育実習による総合的な学び <ol style="list-style-type: none"> (1) 子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解 (2) 子どもの保育と保護者支援 2. 保育の実践力の育成 <ol style="list-style-type: none"> (1) 子ども（利用者）の状態に応じた適切な関わり (2) 保育の知識・技術を活かした保育実践 3. 計画と観察、記録、自己評価 <ol style="list-style-type: none"> (1) 保育の全体計画に基づく具体的な計画と実践 (2) 保育の観察、記録、自己評価に基づく保育の改善 4. 保育士の専門性と職業倫理 5. 事後指導における実習の総括と評価 <ol style="list-style-type: none"> (1) 実習の総括と自己評価 (2) 課題の明確化

Ⅱ. 方 法

2022年1月に、こども保育コースに在籍する2年生（2021年度卒業）を対象としてアンケート調査と、その補完としてヒアリング調査を行った。この時期に調査を行った理由は、多くの学生が5回全ての実習を終え、進路が決定している時期であるからだ。中には、幼稚園教諭二種免許状、保育士資格のどちらかを取得しない学生（協力の同意を得た学生の内3名）もいたが、それらの学生も全ての実習を終えたか、中断となった実習があるものの全ての実習を経験していた。

アンケート調査、ヒアリング調査のどちらにおいても、調査の趣旨や個人情報の保護について説明を行い、回答をたくない項目については未記入、無回答であっても不利益を受けることはないことを伝えたくて実施した。

アンケート調査は、協力の同意を得た学生43名（説明をした学生全員）からの回答を得た。質問項目は、「Q1：卒業後の進路」（単一回答）、「Q2：進路を決定するうえで一番重視したこと（したいこと）は何か」（単一回答）、「Q3：Q2で回答したことを重視した理由は何か」（自由記述）、「Q4：実習での経験が進路決定に影響を与えたか（与えると思うか）」（単一回答）、「Q5：Q4で「与えた」（与えると思う）と回答した場合、影響を与えた（与えると思う）と考える実習はどの実習か」（複数回答）、「Q6：Q4で「与えた」（与えると思う）と回答した場合、Q5で回答した実習が影響を与えた（与えると思う）と考える理由は何か」（自由記述）、「Q7：どういった実習であれば進路決定に有効であると考えてるか」（自由記述）、「Q8：実習の他にどういった機会があれば、進路決定に有効であると考えてるか」（自由記述）の8つとした。項目における選択肢は、保育者の離職に関する先行研究を参考にし、他、こども保育コースに在籍する学生の就職活動中の話や保育職に就いた卒業生の話から、よく聞かれるキーワードも基に作成した。学生によってはどの選択肢にも当てはまらない可能性もあるため「その他」を含めることとし、「その他」を選択した場合は具体的な内容の記入を求めた。

分析方法としては、単一回答、複数回答の項目は単純集計を行いグラフ（図）にし、自由記述の項目に関しては、回答内容をコードとしてまとめ、カテゴリー化し、表にした。表には、例として一部のコードを挙げた。以下、【 】はカテゴリー、《 》はサブカテゴリーを示す。ヒアリング調査は、アンケート調査における回答の結果から、詳細な内容を把握することを目的に13名の学生を対象に行い、後述の「Ⅲ. 結果と考察」にヒアリング調査で明らかとなった内容も含めた。13名の内3名には複数の回答結果について話を聞いている。

Ⅲ. 結果と考察

アンケート調査、その補完として行ったヒアリング調査の質問項目ごとの結果は、以下の通りである。アンケート調査の項目によっては、有効回答者数が43名（協力の同意を得た学生数）とならないこともあった。

なお、アンケート調査の各回答の全体に占める割合は、それぞれの質問項目の有効回答者数で算出し、小数第一位を四捨五入した。そのため、割合の合計が100%とならないこともある。複数回答の場合も、総回答数でなく有効回答者数で割合を算出した。

1. 「Q1：卒業後の進路」（単一回答）

有効回答者数は43名で、「保育所」13名（30%）、「認定こども園」12名（28%）、「未定」7名（16%）、「保育所希望」4名、「何も決めていない」2名、「具体的には決めていないが保育職希望」1名、「幼稚園」5名（12%）、「児童養護施設」2名（5%）、「大学へ編入学」2名（5%）、「保育職を除く職業」1名（2%）、「その他」1名（2%）であった。

「未定」である学生の内、「保育所希望」の4名、「具体的には決めていないが保育職希望」の1名は、興味、関心のある保育施設の見学や、就職試験の予定があった。「その他」の学生は、公務員試験に合格し、保育所または認定こども園に配属される予定だったが、調査時点で配属先が不明であり「その他」を選択した。（図1）

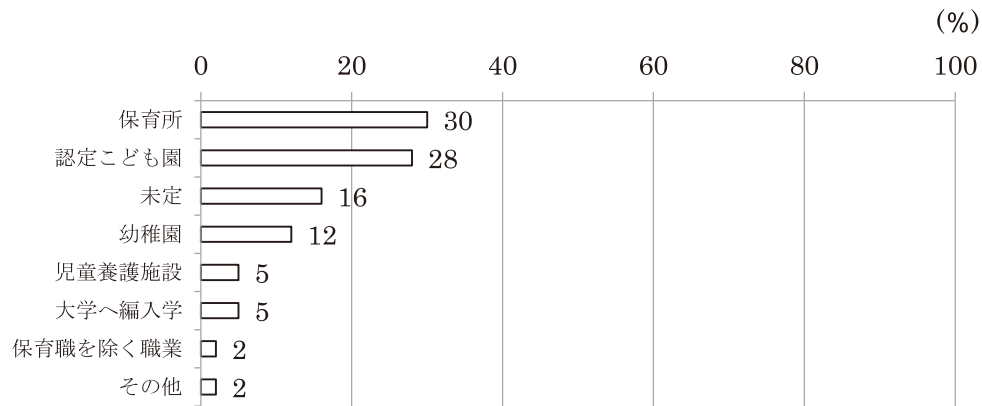


図1 「Q1：卒業後の進路」の結果

2. 「Q2：進路を決定するうえで一番重視したこと（したいこと）は何か」（単一回答）

有効回答者数は41名で、「人間関係」11名（27%）、「賃金」6名（15%）、「規模」3名（7%）、「勤務地」3名（7%）、「仕事内容」3名（7%）、「（家族を除く）知人の意見」2名（5%）、「仕事量」1名（2%）、「休日数」1名（2%）、「家族の意見」1名（2%）、「研修」0名（0%）、「その他」10名（24%）、「長く勤められると思える」3名、「理想の保育が出来る」2名、「実習の経験が活かせる」3名、「福利厚生が充実している」1名、「幼稚園教諭一種免許状を取得出来る」1名）となっている。「その他」を選んだ学生が想定よりも多く、回答内容から大きく5つの理由に分けることが出来た。

進路が未定である学生には、「重視したいこと」を回答するように求め、Q1で「未定」と回答した学生の内、「何も決めていない」とした2名は回答が無く、「未定」であっても「保育所希望」、「具体的には決めていないが保育職希望」と回答した5名については回答があったため、有効回答に含めた（図2）。

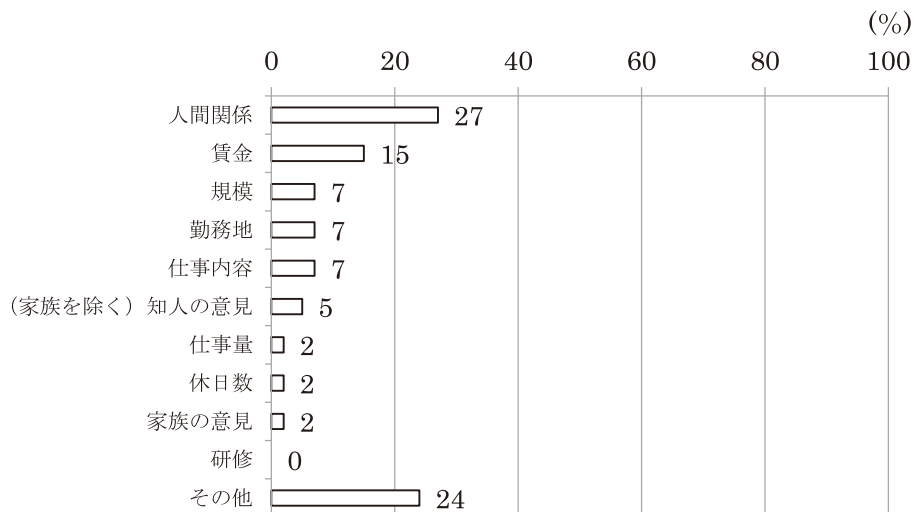


図2 「Q2：進路を決定するうえで一番重視したこと（したいこと）は何か」の結果

3. 「Q3：Q2で回答したことを重視した理由は何か」（自由記述）

有効回答者数は41名であった。まとめた結果、「賃金」は3つ、「人間関係」、「規模」、「勤務地」、「仕事内容」、「仕事量」は2つ、「（家族を除く）知人の意見」、「休日数」、「家族の意見」は1つ、「その他」は5つのカテゴリーが抽出された。Q2で選んだ選択肢が違う場合も、カテゴリーは同じになるケースもあった。

Q2で回答の割合が最も高い「人間関係」は、【自己の成長】、【仕事の継続】の2つのカテゴリーが得られ、保育者同士の人間関係という意味で、Q2の「人間関係」を選択しているケースが多いことも分かった。一部の学生の回答からは、子ども、保護者等、違う相手との関係を意味しているのか、特定の相手を指しているのではなく様々な相手との関係を意味しているのか分からなかったが、学生11名の内7名の回答は、保育者同士の人間関係を示すと思われた。そして、人間関係の良し悪しが、自己の成長や仕事の継続に大きく関わってくると捉えられていることが分かった。

「人間関係」は、保育者の早期離職に関する先行研究において、森本ら（2013）、國田ら（2019）、濱名ら（2019）も示す様に、離職理由として挙げられることが多い^{4) 5) 6)}。中島ら（2017）は、保育の職務上、園の人間関係が家族の様に感じる事が認められ、仕事の継続に繋がることもあれば、煩わしさを感じることもあると示している⁷⁾。

こども保育コースの学生が実習を振り返る際、実習時に受けたリアリティ・ショックについて語ることがあり、実習先の保育者の「人間関係」に関する内容を挙げることも少なくない。また、保育職への就職を希望する学生は、2、3施設を見学してから就職希望先を決定することが多いが、短い見学時間の中で職場の人間関係を把握するにはどうすれば良いかと教員に質問をする学生は毎年の様にいる。保育者だけでなく学生も、「人間関係」に重点を置くケースが多いと考えられる。

Q2で次に割合の高い「賃金」については、【生活の充実】、【経済的安定】、【一人暮らし】の3つのカテゴリーが抽出された。プライベートを充実させるために十分と思われる賃金を得ることを重視する【生活の充実】、保育職の大変さに見合った賃金が必要であると【経済的安定】を求めた回答があった。さらに、学生6名の内2名は、卒業を機に一人暮らしをすることを希望しているために賃金を重視しており、アンケート調査の後、具体的な内容を確認するためヒアリング調査をしたところ、目にする求職票に書かれた保育職の賃金が低いと、一人暮らしは可能なかと不安を抱き、就職説明会や保育所、幼稚園の見学の際、住宅手当について担当者に聞いたということであった。これらは、【経済的安定】に含まれるとも言えなくはないが、例年、学生が進路を決める際、一人暮らしへの憧れ、親から自立したいという思いを耳にすることがあるため、あえて別のカテゴリーとした。先行研究では「賃金」も「人間関係」同様、保育者の離職理由として挙げられることが多い。

一方、益山（2018）によれば、保育士資格の有資格者にとっては賃金が就職や離職の要因として重要であるとしながらも、他の職種と比べてどの位低いのかという検証は十分にされていない。賃金の低さが保育の質に与える影響に関する検証の重要性についても指摘しており、米国における先行研究では大きく影響しているため、日本においても検証が必要であると述べている⁸⁾。

保育職の賃金と保育の質の関係に関する研究蓄積は未だ多くないため、どういった影響があるのかははっきりとしたことは言えない。同じ保育職でも、保育所の保育士、保育所を除く児童福祉施設で働く保育士、幼稚園教諭、保育教諭といった勤務先による違いをはじめ、勤務先の地域、公立か私立かといった違いによっても賃金の差は出るだろうが、「仕事内容に見合った賃金をもらっていない」、「他職種に比べて賃金が低い」と感じていた場合、モチベーションの低下や、他職種への転職に繋がることは十分ある。これまで保育職の賃金を上げるため処遇改善制度も実施されてきたが、学生においても、保育職の賃金は低いと捉えるケースが少なくないと推察される。

その他、ヒアリング調査を行った結果を挙げると、「規模」と回答した3名の内1名は、「複数の園を持ち、規模が大きな方が経営は安定しているのではないかと述べる一方で、「どの園に配属になるか分からないのが不安。希望する園の配属となるかは分からない」と不安も口にしている。2名は、小規模保育所への就職が決まっており、「子どもが少ない方が自分には向いている。先生の人数も少なく家庭的な方が良い」、「実習で大人数の子どものクラスに入り、難しいと思った」と、子どもや保育者の人数が少なく、家庭的な保育を好む傾向にあり、【小規模】であることが進路決定の大きな要因となっていた。

「(家族を除く)知人の意見」と回答した2名は、「保育職として働いている先輩の意見を聞いた」、「そこ(就職を

決めた保育所)で実習をした友人の話が参考になった」と話した。

Q2で「その他」を選び、「実習の経験が活かせる」と記述した3名の内2名は、「就職を決めた園(保育所)で実習をしたため色々分かっている、実習で学んだことを働いてからすぐ活かせると思った」、「実習を経験したことで、どういった園が自分に合うか分かった。実習をした園には就職しないが、保育に対する考え方に共感した園に就職することにした。実習で学んだことが活かせる園だとも思った」と回答した。1名は四年制大学へ編入学する学生で、「実習をしたことでさらに学びたいことが増えた」と、実習が編入学の動機付けとなっていたことが確認された。この1名に関しては、「自己の成長」のカテゴリーにも属するとも言えなくはない。

同じくQ2で「その他」の「幼稚園教諭一種免許状を取得出来る」と回答した学生1名も四年制大学へ編入学する学生であり、「短大では二種しか取れないので、一種を取った方が後々のためには良いと思った」と、自己の成長、将来を見据えて進路を決めている。

【実習の学び】の他、【小規模】、【信用性】、【理想の保育】、【自己の成長】といった他のカテゴリーからも、実習の経験が進路を決める際に何かしらの影響を及ぼしていることが分かる。

表2 「Q3：Q2で回答したことを重視した理由は何か」の結果

Q2の回答 (全回答に占める割合)	カテゴリー	コード例
人間関係 (27%)	自己の成長	•先輩に話しかけやすいか、先輩が明るいかで、自分の成長スピードも変わると思った。
	仕事の継続	•人間関係が良くなければ仕事を続けられない。 •人間関係が、辞める際の大きな原因になると思った。
賃金 (15%)	生活の充実	•仕事だけでなく、プライベートも充実させたいから。
	経済的安定	•保育職の大変さは分かるため、ある程度の賃金は必要。 •賃金の安定は、生活するために重要。
	一人暮らし	•一人暮らしを考えていた為、賃金を重視した。
規模 (7%)	小規模	•見学した際、小規模で雰囲気が良いと思った。 •小規模が自分には向いているため、小規模の保育所を希望していた。
	就職先の 経営状況	•同じ市内に同系列園があり、経営が安定していると思った。
勤務地 (7%)	精神的安定	•心強いので、実家から通いたい。
	一人暮らし	•一人暮らしをしたいが経済的に難しく、実家から通いたい。
仕事内容 (7%)	自己の成長	•自分のスキルアップに繋がりそうなことを重視したい。
	仕事の継続	•自分に合っていないと、その仕事を続けられる自信がない。
(家族を除く)知人の意見 (5%)	信用性	•知っている人の意見は、本当の姿を知るために信用出来る。 •そこに実習に行った友達が、良いと勧めていた。
仕事量 (2%)	モチベーション	•仕事が多いと定時には帰れず、モチベーションが保てない。
	精神的安定	•無理はせずに働きたい。
休日数 (2%)	生活の充実	•プライベートの時間が十分欲しい。

Q 2 の回答 (全回答に占める割合)		カテゴリー	コ ー ド 例
家族の意見 (2%)		親の願い	・実家から通って欲しいという親の願いを重視した。
その他 (24%)	①長く勤められると思える	仕事の継続	・奨学金を借りているため、少しでも長く働けそうかが重要。 ・総合的に良い条件ということが、長く勤められることに繋がる。
		精神的安定	・新しい職場でやり直すことが自分は苦手。
	②理想の保育が出来る	理想の保育	・自分の理想とする保育を目標に保育職を目指してきたが、実習で、園によって出来ることを制限されることが分かった。 ・自分が行きたい保育をしてみたい。
	③実習の経験が活かせる	実習の学び	・就職を決めた園（保育所）で実習をしたため、実習で学んだことを活かせる。 ・実習を通し、大学で学びたいことが出来た。※1
	④福利厚生が充実している	生活の充実	・福利厚生が充実していた方が、生活しやすい。
⑤幼稚園教諭一種免許状を取得出来る	自己の成長	・将来のために、一種免許が必要。※2	

※1・2の学生2名は、四年制大学へ編入学する学生である。

※Q2で「研修」を選択した学生がいなかったため、表からは省略している。

4. 「Q4：実習での経験が進路決定に影響を与えたか（与えると思うか）」（単一回答）

有効回答者数は43名で、「与えた（与えると思う）」36名（84%）、「与えなかった（与えないと思う）」7名（16%）となった。進路が未定である学生には、「影響を与えると思うか」考えて回答するように求めた。（図3）

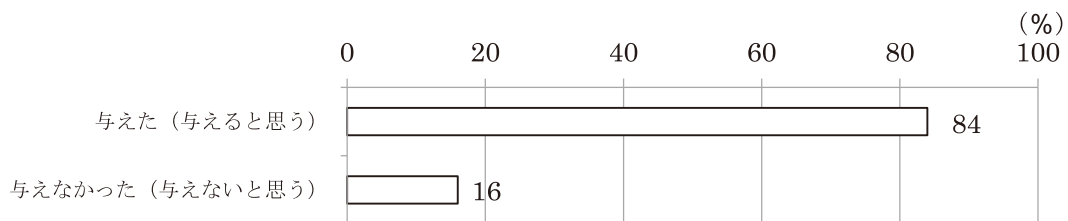


図3 「Q4：実習での経験が進路決定に影響を与えたか（与えると思うか）」の結果

5. 「Q5：Q4で「与えた」（与えると思う）と回答した場合、影響を与えた（与えると思う）と考える実習はどの実習か」（複数回答）

有効回答者数は36名で、「幼稚園教育実習Ⅱ」27名（75%）、「保育実習Ⅲ」2名（67%）、「保育実習Ⅱ」19名（58%）、「保育実習Ⅰ（保育所）」12名（33%）、「保育実習Ⅰ（施設）」10名（28%）、「幼稚園教育実習Ⅰ」9名（25%）であった。

最後の実習となる「保育実習Ⅱ」、「保育実習Ⅲ」は選択制で、同時期に実施している。有効回答者数のうち、「保育実習Ⅱ」を選択した学生は33名、「保育実習Ⅲ」を選択した学生は3名であるため、この2つの実習に関しては、それぞれの実習を選択した学生の人数を有効回答者数として割合を算出した。（図4）

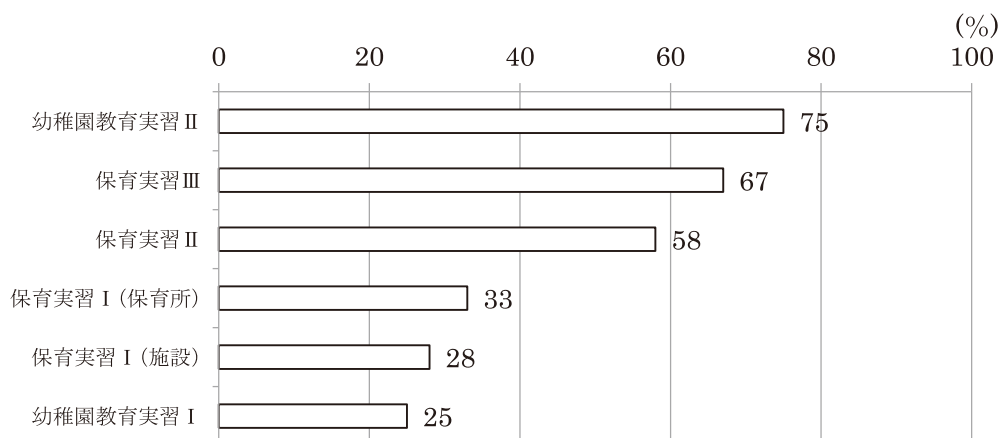


図4 「Q5：Q4で「与えた」(与えると思う)と回答した場合、影響を与えた(与えると思う)と考える実習はどの実習か」の結果

6. 「Q6：Q4で「与えた」(与えると思う)と回答した場合、Q5で回答した実習が影響を与えた(与えると思う)と考える理由は何か」(自由記述)

有効回答者数は36名で、「幼稚園教育実習Ⅱ」は5つ、「保育実習Ⅱ」、「保育実習Ⅰ(保育所)」は4つ、「保育実習Ⅰ(施設)」は3つ、「幼稚園教育実習Ⅰ」は2つ、「保育実習Ⅲ」は1つのカテゴリーが抽出された。Q5で選んだ項目が違う場合も、カテゴリーは同じになるケースや、カテゴリーが違ってもサブカテゴリーが同じとなるケースもあった。

Q5で回答の割合が最も高い「幼稚園教育実習Ⅱ」は、【自己の成長】、【実習先の良い点】、【実習先の悪い点】、【自己の適性】、【保育職の魅力】の5つのカテゴリーが得られた。この実習は2年次最初の実習であり、5つの実習の中で一番長い期間を要する。例年、多くの学生は、この実習の前に経験する「保育実習Ⅰ(保育所)」で初めての指導実習を経験する。「保育実習Ⅰ(保育所)」で経験する指導実習は、短時間の指導実習(部分実習と呼ばれる)であり、「幼稚園教育実習Ⅱ」では短時間の指導実習に加え、1日を通した指導実習(全日実習、責任実習、総合実習等と呼ばれる)も経験することになる。担当クラスの子どもの様子、発達等を考慮し、実習指導者の助言を受けながら、長時間の指導計画を作成し、それに基づいて保育を行うためプレッシャーを感じたり、自信を失ったりする学生もいる。「保育実習Ⅰ(保育所)」で短時間の指導実習(部分実習)をすることは必須では無いため、部分実習も初めて経験する学生もいる。そのため、《充実感・達成感》を感じる学生がいる一方で、保育職に向かないのではないかと《保育職への適性》について考える学生もいることは理解出来る。

《保育職への適性》では、ピアノに関する回答もあり、ピアノの演奏技術を重視する実習先で実習をした場合、苦手な学生は自信を失う、進路決定に影響を与えることがあるとも考えられる。例年、こども保育コースの実習では、保育実習に比べ幼稚園教育実習でピアノ伴奏が課されることが多い。こども保育コースの学生が受ける就職試験においても、保育所より幼稚園でピアノの実技試験が含まれるケースが多い様に思われる。

また、実習期間が長いことから、実習先の保育者や子どもの様子を観察し、接したり、実習先の保育方針や実践について理解したりする機会も多く、《新たな気付き》が生まれ、《保育者の姿》、《子どもの姿》から目指す保育者像、理想の保育を思い描き、【保育職の魅力】を感じることに繋がっていると推測される。一部、《保育者の姿》にリアリティ・ショックを感じた学生もいた。

Q5で次に割合の高い「保育実習Ⅲ」は、この実習を行った学生3名の内2名が選んだため、割合が高くなった。3番目に割合の高い「保育実習Ⅱ」と共に、最後の実習であり、多くの学生にとっては本格的に就職活動が始まる直

前の実習でもある。

「保育実習Ⅲ」は【自己の成長】、「保育実習Ⅱ」は【自己の成長】の他、【実習先の悪い点】、【自己の適性】、【保育職の魅力】の4つのカテゴリーが抽出された。《充実感・達成感》を感じたのは、幼稚園教育実習の最後の実習である「幼稚園教育実習Ⅱ」同様、「保育実習Ⅲ」、「保育実習Ⅱ」もそれぞれ保育実習では最後の実習で、より実践的な内容が含まれることが関係していると思われる。同時に、2年間の実習の最後に行う実習でもあることから、それまでの実習経験や様々な科目での学びの深まりから、保育力、専門性が育まれ、自信が生まれるのではないかと。「保育実習Ⅱ」は「幼稚園教育実習Ⅱ」同様に、自分の《幼稚園、保育所への適性》を知る機会にもなり、幼稚園教育実習では経験しない2歳以下の子どもとの関わりを通して、保育所の仕事内容、役割への理解を深めている。

「保育実習Ⅰ（保育所）」では《公立の良さ》を感じる学生がおり、「幼稚園教育実習Ⅱ」でも同じサブカテゴリーが抽出された。保育者の話や実習先での体験から私立と公立の違いを感じている様だ。このサブカテゴリーに当たる回答をした学生2名は、1年次から公立の保育者を目指し、実習後、公務員試験を受験している。実習が公務員試験受験の直接のきっかけとはなっていないが、公立保育者が働く場で実習をすることで、希望する進路が自分に合っているか、その選択で良いかと確認している様にも思われる。

「保育実習Ⅰ（施設）」は、初めての施設実習^{注3)}で、多様な種別の施設で実習を行い、保育所や幼稚園、認定こども園での実習に比べ事前に実習のイメージを持ちづらいために、実習をすることで《新たな学び》、《新たな気付き》が生まれている。この実習で施設保育士に興味を持ったと回答した学生は、「保育実習Ⅲ」を選択し、児童養護施設で働くこととなった。

一番割合の低かった「幼稚園教育実習Ⅰ」では、《保育者の姿》や《子どもの姿》、《保育方法》を観察、体験し、【実習先の良い点】、【実習先の悪い点】を感じ取っている。2年間で初めての实習であり、1年次の10月に実施することや、実習先の概要や1日の流れを理解したり、幼稚園教諭の職務内容や役割を把握したりする等、その後の実習に比べ基礎的な内容となっていることから、進路についてまだ十分に意識していなかったとも考えられる。

表3 「Q6：Q4で「与えた」（与えると思う）と回答した場合、Q5で回答した実習が影響を与えた（与えると思う）と考える理由は何か」の結果

Q5の回答 (Q5の全回答に 占める割合)	カテゴリー	サブカテゴリー	コード例
幼稚園教育実習Ⅱ (75%)	自己の成長	充実感・達成感	・自ら気付き考え、実践し、成長出来た。
		新たな気付き	・好きな保育に気付いた。
	実習先の良い点	保育者の姿	・「こんな保育者になりたい」と感じる瞬間が多かった。 ・保育者同士の連携が良かった。 ・指導保育者が熱心に教えてくれた。
		子どもの姿	・子どもの姿から、この園で働きたいと思った。
		公立の良さ	・（公立で実習し）職場環境の良さについて話を聞いた。
	実習先の悪い点	保育者の姿	・先生方の雰囲気が悪い。
	自己の適性	保育職への適性	・反省点が多く、実力不足だと感じた。 ・ピアノが苦手で、保育所が合っていると思った。
		幼稚園、保育所への適性	・幼稚園、保育所どちらに向いているか分かった。
	保育職の魅力	新たな気付き	・改めて子どもに関わった仕事が良いと思った。

Q5の回答 (Q5の全回答に 占める割合)	カテゴリー	サブカテゴリー	コード例
保育実習Ⅲ (67%)	自己の成長	充実感・達成感	• 保育の楽しさを感じた。
		新たな学び	• 発達障害児への支援を見ることが出来た。
保育実習Ⅱ (58%)	自己の成長	充実感・達成感	• 0～2歳児を保育し、充実した気持ちになった。 • 日誌が大変だったが、乗り越えることで自信がついた。 • 責任実習を行い、達成感を感じた。
	実習先の悪い点	保育者の姿	• アドバイスが無いといったことがあり、保育所へ勤めた かったが嫌になった。
	自己の適性	保育職への適性	• 指導案が大変で、保育職に就けるか不安になった。 • 子どもの前に出ることが重荷で、保育職は無理と感じた。
		幼稚園、保育所 への適性	• 幼稚園での実習と比較し、保育所が自分に合うと分かった。 • 保育士と幼稚園教諭の違いを理解した。
保育職の魅力	新たな気付き	• 0歳児と関わり、長期的に成長を見届ける仕事をしたいと 思った。	
保育実習Ⅰ(保育所) (33%)	実習先の良い点	公立の良さ	• (公立で実習し) 公立の良さを感じた。
	実習先の悪い点	保育者の姿	• 先生が厳しい。(小さい子どもに対してトラウマになった)
	自己の適性	保育職への適性	• 上手く支援出来ず、自分は保育者に向いていないと思った。
		新たな気付き	• どういった園が自分に合わないか気付いた。
保育職の魅力	新たな気付き	• 編入希望だったが、保育職の魅力を知り、早く保育者にな りたいと思った。	
保育実習Ⅰ(施設) (28%)	自己の成長	新たな学び	• 初めて児童養護施設に行き、気付きが多かった。
	実習先の良い点	保育者の姿	• 職員の利用者への関わりが良いと感じた。
	保育職の魅力	新たな気付き	• 施設で働く保育士に興味を持つきっかけとなった。
幼稚園教育実習Ⅰ (25%)	実習先の良い点	保育者の姿	• 尊敬出来る先生に出会えた。
		子どもの姿	• のびのび遊ぶ子どもの姿から、こういった保育がしたいと 感じた。
	実習先の悪い点	保育方法	• このような保育は良いのかと戸惑った。

7. 「Q7：どういった実習であれば進路決定に有効であると考えるか」(自由記述)

有効回答者数は42名で、3つのカテゴリーが抽出された。

【養成校の実習に関する方針】は、《実習先の選定方法》、《実習の日数》、《実習生の数》の3つのサブカテゴリーから得られた。

「保育実習Ⅰ(施設)」、「保育実習Ⅲ」は、宿泊で行う実習が多く、実習を行う建物や敷地内の別の建物に宿泊する部屋があり、利用するケースが殆どである。そのため、こども保育コースでは、通勤の実習を除き、朝の通勤時間を考慮して実習先を選ぶという事は無い。しかし、その他の実習においては、通勤時間が長い場合、学生の負担が大きくなるため、1時間を超えないことを目安として実習先を選定している。また、実習先を選定する前に、学生の希望実習先を調査しているが、保育者の人手不足、または子ども(利用者)の減少で実習を受け入れられない、卒園児のみ実習の受け入れをしているといったケースがある他、新型コロナウイルスの感染拡大状況から年度内で受け入れ

る実習生数を設定しており、既に達している場合は受け入れ出来ないといった理由で断られるケースもあり、第1希望の実習先で実習が出来る学生は年々減少しているのが実状である。特に「保育実習Ⅰ（施設）」、「保育実習Ⅲ」は、コロナ禍で実習先の決定に時間がかかり、《実習先の選定方法》に学生の希望を優先させることは困難な状況である。

《実習の日数》については、文部科学省、厚生労働省の基準もあり、2年間という期間で幼稚園教諭二種免許状、保育士資格を取得するための実習を行うため、変更することは容易では無いが、資格、免許状を取得するための実習とは別に、保育現場で子どもや保育者と関わる、保育を実践するといった機会を増やせる可能性はあり、それを求めている学生もいると考えられる。「今よりも期間が短く、回数が多い」と回答した学生1名には、ヒアリング調査をしたところ、「実習で辛いことが多いため、短期間の方が良い」と感じていることが分かった。

《実習生の数》については、実習先の受け入れ人数の制限があるために2名以上の受け入れが可能な実習先が減少しているという《実習先の選定方法》の難しさに関連しているが、【実習先の様子】の《保育者の姿》で、優しい指導や保育者からコミュニケーションを取ること、関わる際のストレスを感じないことが、進路決定に良い影響を与えると回答していることも踏まえると、学生のメンタルの弱さや実習中の保育者との関わりが上手くいかないケースがあることが垣間見られる。《実習の日数》で、実習の辛さを述べた学生の言葉からも、メンタルが弱い、または実習中、ストレスフルな環境にあることは想像出来る。

【実習先の実習に関する方針】は、《実習内容》の1つのサブカテゴリーから得られた。様々な回答があったが、こういった実習を経験し、進路に影響があったと満足しているか、こうあって欲しいと望んでいるかのどちらかであろう。後者であれば、保育の現場を目の当たりにし、想像していた実習とは違うとギャップを感じた時に保育者を目指すということに対してネガティブな感情が生じていると考えられる。各実習には目標や内容があり、加えて実習の連続性や発展性も加味しながら体験を通して学び、保育者としての力量を高めていく。学生の回答にもある様に、保育職の遣り甲斐や魅力も感じられる機会となれば、意欲が高まり、不本意な進路変更や実習の中断を防止する効果もあるのではないかと。

表4 「Q7：どういった実習であれば進路決定に有効であると考えるか」の結果

カテゴリー	サブカテゴリー	コード例
養成校の実習に関する方針	実習先の選定方法	<ul style="list-style-type: none"> 自分の希望の実習先に行ける。 今よりも多くの実習先に行ける。
	実習の日数	<ul style="list-style-type: none"> 今よりも期間が長い。 今よりも期間が短く、回数が多い。
	実習生の数	<ul style="list-style-type: none"> 2人以上実習生がいる。
実習先の実習に関する方針	実習内容	<ul style="list-style-type: none"> 保育者の仕事内容を多く体験出来る。 実習先によって違いが無い。 保育者になりたいと思える。 楽しいと思える。 達成感を感じられる。 責任実習を積極的に行える。 子どもへの接し方を詳しく理解出来る。 子どもと接する機会が多い。 保育職の遣り甲斐を感じられる。 記録の量が少ない。 興味・関心が広がる。 自信がつく。

カテゴリー	サブカテゴリー	コード例
実習先の様子	実習先の雰囲気	<ul style="list-style-type: none"> •実習先の人間関係が良い。 •実習先の雰囲気が良い。 •自分の保育観に合った保育をしている。
	保育者の姿	<ul style="list-style-type: none"> •優しく指導してくれる。 •コミュニケーションを多く取ってくれる。 •目指したいと思う保育者がいる。 •保育者と接する際にストレスが無い。

【実習先の様子】は2つのサブカテゴリーから得られ、《実習先の雰囲気》では、Q2、Q3の進路決定で重視したこととその理由、Q6の進路決定に影響を与えた実習を選んだ理由の回答同様、「人間関係」に関する内容が挙げられた。《保育者の姿》では、Q6の回答と同じく、理想の保育者との出会いに関する内容が含まれている。これらから分かることは、学生は実習先の人間関係が良いと感じ、理想の保育者に会いたいことを求めており、進路決定に影響をもたらしているということだ。

8. 「Q8：実習の他にどういった機会があれば、進路決定に有効であると考えてるか」（自由記述）

有効回答者数は40名で、2つのカテゴリーが抽出された。

【養成校の取り組み】は4つのサブカテゴリーから得られ、回答には、こども保育コースで既に実施されていることや、学生が実施して欲しいと思っていることが挙げられた。

《保育実践》は、実習指導やその他の科目で経験している模擬保育や子どもと触れ合う活動の他、実習先とは違う保育現場で実習の様な体験をするという回答から生成された。こども保育コースでは短期大学の敷地内で子育て支援広場を開催しており^{注4)}、科目の学びを深めたり、実習とは別に子ども、保護者と関わる機会を得て実践力を高めたりするために学生が参加をしている。他にも、実習に行く前の1年次前期に履修する科目の一環で、近隣の保育所や認定こども園にグループごとに行き、子どもと関わる機会を設けている。これらの活動を学生自身が既に経験していることから、進路決定に有効であると実感し、回答していると思われるケースもあった。

《保育職への理解》、《保育職とは違う職種の理解》はキャリア教育と関連する。こども保育コースでは、例年、卒業生の9割程が保育職に就き、就職活動をする前に《保育職とは違う職種の理解》を深める機会は殆ど無い。保育職とは違う進路に進む学生は、四年制大学へ編入学するケースを除き、実習や保育に関する科目での学びを通して保育職への適性が無いと感じたり、実習の評価から幼稚園教諭免許状、保育士資格を取得出来なかったりする他、興味、関心のあることが新たに出来、希望進路を変更することもある。保育職とは別の職種について知ること、保育の学びに対する意欲低下が懸念されるが、学生の視野を広げ、適性に合った進路選択を可能にする可能性もある。

その他、《就職希望先》を決めるために学内で開かれる就職説明会に参加するという回答もあった。これも実施されているが、学内開催は参加しやすいと感じているのかも知れない。

【自己の取り組み】は2つのサブカテゴリーから抽出された。これらは【養成校の取り組み】のサブカテゴリーと重なる。アルバイトやボランティアで《保育実践》の場を得ることや、学外で開催される就職説明会への参加、保育現場の見学が《就職希望先》決定に繋がり、進路決定に役立つと考えていることが分かった。なお、【養成校の取り組み】として開催される就職説明会、【自己の取り組み】として参加する学外の就職説明会に関する回答をした学生4名へのヒアリング調査から、福島県内、県外問わず様々な地域の就職先の説明、経験年数の違う保育者それぞれの話を就職説明会で聞くことが、進路決定に効果的だと考えていることも分かった。

表5 「Q8：実習の他にどういった機会があれば、進路決定に有効であると考えるか」の結果

カテゴリー	サブカテゴリー	コード例
養成校の取り組み	保育実践	<ul style="list-style-type: none"> ・実習とは別に模擬保育を行い、お互いにアドバイスする。 ・子どもと触れ合う活動をする。 ・実習先でない保育現場で、実習の様な体験をする。
	保育職への理解	<ul style="list-style-type: none"> ・保育現場で働く保育者の話を聞く。 ・保育職の卒業生と交流する。
	保育職とは違う職種への理解	<ul style="list-style-type: none"> ・保育職とは違う職種の人の話を聞く。 ・保育職とは違う職種の職場見学をする。
	就職希望先	<ul style="list-style-type: none"> ・就職に関する説明会に参加する。
自己の取り組み	保育実践	<ul style="list-style-type: none"> ・保育に関するアルバイトをする。 ・保育に関するボランティアをする。
	就職希望先	<ul style="list-style-type: none"> ・就職に関する説明会に参加する。 ・保育現場の見学をする。

IV. 総合考察と課題

本稿では調査結果から、学生が進路決定で重視したこと、実習の影響、進路決定に有効と考えること等について示した。最後に、これまでの考察から、進路決定に有効となる実習、実習指導をはじめとした養成校の教育やキャリア支援について提案したい。

実習においては、特に「充実感、達成感を得られる」、「保育職の魅力を知ることが出来る」、「理想となる保育者に会える」、「実習先の保育者同士の人間関係が良いと感じられる」ことが、学生にとって進路決定に良い影響を与えると分かった。

実習中、緊張や戸惑いを感じながらも課題を乗り越えたという充実感や達成感、保育者としての役割を体験し分かった保育職の遣り甲斐や新たな気付きから、「保育職に就きたい」という思いが高まる可能性が示唆された。

さらに、保育者と密接に関わり、「丁寧な指導を受けた」、「この様な保育者になりたい」と感じることや、実習先の良好な人間関係も学生にとっては重要な視点である。実習後に学生から聞くリアリティ・ショックには、保育者の子どもとの接し方に関する内容が含まれることもあり、保育職は子どもの心身の発達、成長を支援し、子どもの最善の利益を保障する重要な役割を担っていることを学生自身が理解しているからこそ、思い描いていた理想の保育者像と現実とのギャップにショックを受けているのではないかと捉えられる。そのため、理想の保育者との出会いが、安心感や肯定感を抱いたり、目標とする存在となったりするのではないかと捉えられる。磯村ら（2021）によると、保育経験年数の多い保育者が実習指導をすることが望まれているものの、実際は保育経験の少ない保育者が指導にあたるケースもあり、保育者自身が困難感を抱えていることもある⁹⁾。そういった中では、十分な指導は望めない。また、保育職は保育者同士、或いは違う職種の職員と連携しながら仕事を進める場面が多く、人間関係が悪い場合、保育の質の低下も懸念されることや、学生がコミュニケーションの取りやすさを重視するために余計に働きづらいつ感じるとも考えられる。

リアリティ・ショックに関しては大野（2018）が、学生が抱えている保育者や保育所、幼稚園に対するイメージと違うことが実習で起きると、リアリティ・ショックを感じ、それを乗り越えて保育所や幼稚園への就職を決定していることや、進路に関してだけでなく、実習での経験を積み重ねる中で、保育者としてのアイデンティティが形成されていること示唆している¹⁰⁾。リアリティ・ショックを乗り越える力があり、経験をその後の糧にする学生であれば別

だが、適性があるにもかかわらず実習が原因で保育職を諦めたり、小島（2020）が述べている様に、進路決定後、就職後も心が不安定な状態となったりするケースがあるとすると、実習で感じる理想と現実のギャップを軽減し、実習生として身に付けるべき力、学ぶべき内容を考慮しつつ学生の能力に合わせた指導を行う必要がある²⁾。充実感や達成感を得る機会を意識的に設けることは、進路決定にも有効な実習となり得ると考える。

実習中は養成校の教員が各実習先を訪問し、学生の様子や実習指導を担当する保育者がどのような指導を行っているかを把握し、学生に対して指導、助言を行う他、必要に応じて保育者に指導方法の調整を依頼し、養成校側の要望を伝えることもある。悩みや不安があり、訪問指導の時間外でも教員に連絡を取る学生もいるが、実習中、学生への指導を中心的に担うのは実習先の保育者となるため、実習中に学生が経験することが進路決定に多大な影響を与える可能性があることを実習先が十分認識しなければならない。

養成校では、特に「実習外でも保育実践の場がある」、「卒業生やその他の保育者と接する、就職に関する説明を聞く機会がある」、「保育職とは別の職種への理解を深める機会がある」ことが有効であると示唆される。これらは実習指導の時間のみでは難しいため、他の時間も活用し、学内関係部署との連携が必要となる。別の職種を知る場を求めていることは意外であったが、実習を経験し保育職への適性が無いと感じる他に、別の職種に関心を持ち希望進路を変更するケースもあり、保育の専門性を構築していくと同時に、適性や「自分らしさ」を出せる進路を検討することは、キャリア形成を促す機会になる。

さらに、学生自身が保育に関するアルバイトやボランティア、就職説明会への参加を積極的に行うことも有効であると捉えていることも明らかとなった。コロナ禍のため、密になりやすい保育現場でのアルバイト、ボランティアを行うのは難しいこともあるが、そのような機会があった場合は知らせ、参加しやすい環境を整えることは出来る。

本稿では学生の立場から調査を行ったが、保育者の立場から進路決定に有効な実習についてどう考えているか、行っていることはあるか等については把握していない。学生と実習先の保育者との考えにズレが生じている可能性もあるだろう。

加えて、学生が保育職や保育の魅力をさらに感じ、就業意識を高めるため、もしくは進路について再考するためには、養成校、実習先をはじめとした保育現場は勿論、行政等との連携も不可欠である。こども保育コースでは、学内の子育て支援広場や学校行事、就職説明会等で保育現場や行政と関わる機会もあるが、さらに連携、協力出来る関係づくりも課題であり、密接な関係をつくることで、互いの考えや学生の実態等、情報交換が出来る場ともなる。保育職は保護者、家庭と連携して子どもの育ちを支えるだけでなく、地域における子育て支援の役割も担い、地域関係機関と積極的に連携することを求められ、地域にとっては、保育者を確保し、質の高い保育を保証することは重要であるため、地域全体で保育者を目指す学生を育てていく必要があるとも考える。昨今、全国各地で、養成校や保育現場、行政等が協力し、学生が実習外で保育体験や職場環境の確認、保育者と交流出来るツアー等が実施されている。学生がこうした場に参加することは、実習とは違い評価を気にせず、求人票や短時間の見学だけでは実態を把握出来ないという不安を解消出来る他、参加したことで就職後、思い描いていた働き方とのギャップを感じづらいこともあるのではないだろうか。実習外で、様々な保育現場を体験出来る取り組みが増えることも、学生の進路決定には有効であろう。実習では一定期間同じ実習先で過ごし、子どもや保育者と関わる機会が多いため、実習先への就職を希望する場合は就職後の働き方をイメージしやすいというメリットもあるが、必ずしも実習先に就職する訳では無い。

最後に、短期大学の場合、2年間という限られた期間で保育者として必要な知識、技術の習得を目指すため時間的ゆとりがあるとは言えず、難しい面もあるが、養成校として充実した学びの環境やキャリア形成のための支援を行い、実習先をはじめとした保育現場、その他関係機関と連携を図りながら、今後さらに質の高い保育者育成をすることが求められると考える。

注

- 注1) こども保育コースでは、学生が希望する進路等を基に、保育実習Ⅱ（厚生労働省「保育実習実施基準」に従い、保育所又は幼保連携型認定こども園、小規模保育A・B型及び事業所内保育事業で実習を行う）、保育実習Ⅲ（厚生労働省「保育実習実施基準」に従い、児童厚生施設または児童発達支援センター、その他社会福祉関係諸法令の規定に基づき設置される施設で、保育実習を行う施設として適当と認められる施設で実習を行う。保育実習Ⅱを行う施設を除く）の内、どちらかを選択して行う。
- 注2) 1年次に「幼稚園教育実習Ⅰ」（10月、5日間）、「保育実習Ⅰ（保育所）」（2月、10日間）、2年次に「幼稚園教育実習Ⅱ」（5月、15日間）、「保育実習Ⅰ（施設）」（6月、10日間）、「保育実習Ⅱ」又は「保育実習Ⅲ」（8月、10日間）を行っているが、2020年度から新型コロナウイルスの影響により、実習日程が変更となるケースもある。
- 注3) 保育実習Ⅰ（施設）は厚生労働省「保育実習実施基準」に従い、児童養護施設、障害児入所施設等の施設で実習を行っている。
- 注4) 授業が開講されていない期間や学校行事の日等を除き、平日2回と土曜に実施している。

文 献

- 1) 厚生労働省（2022）指定保育士養成施設の指定及び運営の基準についての一部改正について。
https://www.mext.go.jp/content/20220831-mxt_kyoikujinzai01-000024772_4.pdf（情報取得2022/9/11）
- 2) 小島千恵子（2020）学生は『保育実習』から何を学ぶのか。名古屋短期大学研究紀要, 58, 59-69.
- 3) 神谷哲司（2009）保育者養成系短期大学生の保育者効力感の縦断的变化——実習時期と就職活動を通じた進路選択過程に着目して。キャリア教育研究, 28(1), 9-17.
- 4) 森本美佐・林悠子・東村知子（2013）新人保育者の早期離職に関する実態調査。奈良文化女子短期大学紀要, 44, 101-109.
- 5) 國田祥子・小阪美由美・西菜見子（2019）保育士の離職意思と職場環境の関係。中国学園紀要, 18, 113-122.
- 6) 濱名潔・中坪史典（2019）新任保育者の離職と育成をめぐる研究の動向と課題。幼年教育研究年報, 41, 61-74.
- 7) 中島美那子・菅野ひろみ・相田詩織・三井雅子・山田えりな・吉田珠梨（2017）保育者の早期離職の要因に関する探索的研究——M-GTAを用いたインタビュー分析から——。茨城キリスト教大学紀要, 51, 127-137.
- 8) 益山未奈子（2018）日本の保育士不足に関する賃金の影響——政策動向及び米英の調査研究からの検討——。保育学研究, 56(3), 45-55.
- 9) 磯村正樹・鈴木裕子（2021）幼稚園における教育実習指導の課題と可能性——実習指導をする保育者の自己評価に着目して——。愛知教育大学教職キャリアセンター紀要, 6, 105-112.
- 10) 大野和男（2018）進路決定における保育実習・教育実習の重要性と実習時のリアリティ・ショック。鎌倉女子大学紀要, 25, 35-48.